

「心の教育の必要性」

はじめに

前回では、現場に入らなければならないこととして「現場処理能力」をまず身につける、というお話をしました。そして、現場処理能力を学ぶ3要素(教育)として、知育(知識教育)、技術(技術教育)、体育(身体育成)につ

第17回

現場必勝セミナー

株式会社 フォンシュレダージャパン 代表取締役社長

岡本 英男

いて、車の運転を例にとり説明しました。これらは清掃、ビルメンテナンスの業務に携わる初心者の方には必須の教育と思われる。今回は心育(心の教育)というものの必要性について考えてみたいと思います。

普遍的教育「心育」とは

現場処理能力を身につけるための3つの要素(教育)について前回紹介いたしました。これら3種類の教育は、現場処理能力の獲得と向上を目指す個別教育となります。今回申し上げたいことは、清掃、ビルメンテナンスの仕事に携わる以前に、人間としてあるいは社会人として受けていなければならない普遍的な教育があるということです。

それは倫理道徳の教育、あるいは心の教育というものです。本来であれば、こうした教育は家庭の中で、あるいは学校教育の中で育まれるものであります。しかしながら、現実には家庭崩壊が進み、学級崩壊といわれるような教育現場の荒廃に

伴い、社会全体が荒れている状況では、なかなか理想論を唱えることはできないのが現状であります。ここで車の運転の例に戻りますと、運転免許を取得することで曲りなりに初心者マークを付けて公道を走れるようになります。この運転免許を取得した運転手が、運転マナーや交通法規を守らない人だったらどうでしょうか。最初は慣れていないので慎重な運転を心がけるでしょうが、慣れればその人の本性が現れ、そのうち交通違反、交通事故を起こしてしまうでしょう。運転に対する知識や技術を教えたとしても、運転マナーの根幹である弱者保護、交通

ルールの順守が欠落しているれば、車が凶器と化すことは皆様ご存じのとおりです。清掃、ビルメンテナンスの業界におきましても、個別教育として現場処理能力を伝えることは重要です。しかしながら、これだけではとまると知識偏重、技術偏重になりかねません。

教育の力で人手不足に対応

また、利潤追求、企業規模の拡大だけが至上命題となった利己的な会社では、お客様優先のサービス精神が欠落し、思わぬ大失敗を犯してしまう危険性さえ生じます。以前紹介しました、大手企業の全国販売店網から出入り禁止処分を受けたB M会社などは、その例に当てはまるのではないのでしょうか。

そのようなことが起こらないように、個人においても、会社組織においても、現場処理能力を身につけるための個別教育の根底には、普遍的な教育としての心育(心の教育)というものが必要となってくるのではないのでしょうか。

清掃、ビルメンテナンスの現場では、元請け、子請け、孫請け、ひ孫請けといった階層的な上下関係によって、差別的待遇が生じやすくなっております。さらに申し上げれば、現場を担当するチームの中でも、責任者と部下、同僚の間で、あつてはならないことと言いつつも、いじめや人格を無視した対応(パワハラ、モ

人手不足の状態が蔓延しております。募集しても応募が来ない。やっと来てくれた一人も、約束した当日に現場に来てくれず、連絡を取ろうと携帯に電話をかけても出ない。そのような頼りにならない人たちが多い中で、やっと戦力になりそうな人材が育ったかと思えば、上司や同僚の冷たい言葉に傷つき辞めていってしまう。多額な人材募集費をかけたが、人材が定着しない悪循環となっており、会社もあると聞いております。

人手不足の慢性化による現場崩壊が現実化し、それがもとでお客様からタメだしを受けようでは明るい未来場スタップは疲弊し、現場崩壊という言葉さえ生じるのではないのでしょうか。

「もの」と「人」を大切に

ここで清掃、B M業界においてこそ可能な心育(心の教育)があるという、希望的なお話をさせていただくことがありません。また、清掃、B M業界を見渡しますと、他

その第一歩は、募集に応募してくれた人々を、戦力となってもらえるよう大切に育てていく力を持つことです。そのためには、原点に立ち返って基本的な教育を施すことではないのでしょうか。

繰り返しになります。現場処理能力を学ぶ3要素として、知育(知識教育)、技術(技術教育)、体育(身体育成)の教育を施すことに加え、心育(心の教育)を大切にすることによって体制を作り直していくことが、盤石な人的基盤を築いていくことになると思います。

のを大切に扱う気持ちが生え、知らず知らずのうちに心まできれいになっていくことを体験できるのが、清掃、B M業界の仕事の良さだと思います。例えば、ワックスが古くなっていったところの剥離作業をすることで、床面が見違えるようにきれいになった時の感動。トイレの便器に尿石が付いて悪臭を放っている状態から尿石を除去し、洗浄することでトイレが見違えるように清潔感を取り戻した時の感動。エスカレーターベルトを洗剤の付いたウエスで力を入れて拭いているうちに、ベルトがもとのきれいな色を取り戻し輝き出す時の感動。ものをきれいに大切に扱うことで、すっぴんだ心がきれいになっていくような経験をされたことはなかったでしょうか。

会社組織であれ、現場を担当するチームであれ、運命共同体という考えを持つことです。清掃、ビルメンテナンスの施工がうまくいかず結果を出せなければ、評価は上がりません。現場に入れば、誰が偉いとか、誰が下だとかということはどこかに置いて、現場を成功させなければ明日はないということ、全員が一つになっていかなければなりません。みんなで一緒に助け合い、支え合い、力を合わせていく中で、メンバー一人ひとりを大切にしていくことが成功の秘訣となります。そしてそこには、家庭や学校で培われるべき信頼関係や愛情関係を疑いの体験でできる世界があります。

まとめ

以上、教育論の用語を用いながら、心育(心の教育)についてお話させていただきました。お客様に喜んでいただけるような良い施工を提供していく中で、教育の重要性を認識していただき、それを通して会社がよくなり、個人がよくなり、現場がよくなっていくことの参考にしていただければ幸いです。

責任者と部下の立場は先生と生徒、父と子のもちろん先輩、後輩の関係は兄弟姉妹の関わりにつながります。そうした人間関係の中

【岡本英男氏経歴】
●岡山県岡山市出身
●中央大学理工学部卒
●(公社)全国ハウスクリーニング協会理事
●建築物環境衛生管理技術者



岡本英男氏